



治療選択のジレンマ

ある日、「最近、背中が痛いんだよね。前に

心筋梗塞をやったときの痛みと同じなんだよ」と、もう数年にわたって診察をしているいつも柔和な

なっているいつも柔和な

に心づいて考察し、それを

患者に伝えて同意決定し

ていくものですが、在宅

医療ではそこに加えて、

患者の生活、死生観、家

族の考えなどがより色濃

顔の男性患者が、ややつだ。家でできる範囲で治く出ます。ときに在宅医

らそうしていました。療してほしい」と強い意

志を示されました。きっともつと良くなるの

いたら、しばらくすると、そこで不整脈の一因と

心室頻拍という命に関わった心筋梗塞に対して

る不整脈が出てきました。薬剤の追加対応としまし

た。そこで薬剤の点滴静た。そして翌日様子を見

注投与をしましたが、治たところ、「先生のお陰

ならず、入院を提案しましで痛みが楽になったよ

た。ところがその方は「死と回復されて、こちらも

にたいとは思わないけ胸を撫で下ろしました。

など、病院で寝たきりに、医師の治療方針は、常

なっているいつも柔和な



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症専門医
・認知症サポート医

[まつばらホームクリニック]
☎042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応: 午前 9:00 ~ 午後 6:00
■定休日: 土日 (祝日は診療)
■訪問地域: 西東京市、奥久留米、
新座、練馬の一部
まつばらホームクリニック 検索

